

消化器外科Ⅰに通院又は入院中の／過去に通院又は入院された患者さん
またはご家族の方へ
(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の連絡先へご照会ください。

[研究課題名] ストーマ造設術後のストーマ脱出に関する全国アンケート調査

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 南須原 康行

[研究代表機関名・研究代表者名・所属]

東邦大学医療センター大森病院 一般・消化器外科 教授 船橋公彦

[研究の目的]

手術で腸の病気の部分を切り取ったあとに人工肛門を造設した患者さんの合併症のひとつに人工肛門脱出（以下、ストーマ脱）があります。これは人工肛門の腸管が異常に飛び出してしまいますが、本研究では日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会に所属する会員施設において対象期間内に造設されたストーマの中で発生したストーマ脱に対する情報を取集することで、日本におけるストーマ脱の発生状況、各施設のストーマ脱に対する対応、ストーマ脱が発生してくる背景（患者因子、手術因子など）を明らかにすることを目的としています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2015年1月から2015年12月の1年間で、当院でストーマ造設術治療を受けた方

○利用するカルテ情報（2020年12月までのカルテ情報を使用します）

性別、年齢、身長、体重、ストーマ脱発生部位（盲腸/上行結腸/横行結腸/下行結腸/S状結腸/回腸/その他）、ストーマ造設年月日と造設時のストーマサイトマーキングの有無、ストーマ造設の目的、ストーマ脱への傍ストーマヘルニアの併存の有無、ストーマ脱患者の併存疾患の有無（COPD/喫煙/腹水/喘息/糖尿病/肝硬変/腎障害/その他）発生したストーマ脱への対応（保存的加療/手術、手術の場合、手術日、手術となった主な理由、緊急/予定手術、術式、術後の合併症の発生の有無とその内容）

○研究の方法

この研究は、下記の研究機関で実施します。この研究に参加している日本ストーマ排泄リハビリテーション学会の施設会員である医療機関に所属している医師を対象としてアンケート調査を行います。アンケートは、所定のエクセル表に上記該当事項を記入し、

[研究実施期間]

実施許可日～2027年2月28日

[共同研究機関名・研究責任者名]

聖マリアンナ医科大学病院	野北陽子
東京女子医科大学病院	板橋道朗
愛知県がんセンター	小森康司
東北労災病院	高橋賢一
独協医科大学病院	石塚満
日本医科大学附属病院	山田 岳史
兵庫医科大学病院	内野基
産業医科大学	平田敬治
帝京大学医学部附属病院	野澤慶次郎
奈良県立医科大学附属病院	西林直子
福井大学医学部附属病院	五井孝憲
日本医科大学千葉北総病院	松本智司
深谷赤十字病院	石川文彦
藤枝市立総合病院	水島史乃
埼玉医科大学総合医療センター	幡野哲
福島県立医科大学会津医療センター	遠藤俊吾
横浜新緑総合病院	齊藤修治
亀田総合病院	佐藤理子
順天堂大学医学部附属順天堂医院	坂本 一博
兵庫県立西宮病院	福永睦
国立がん研究センター中央病院	工藤礼子
杏林大学医学部附属病院	小嶋幸一郎
東京遞信病院	村田祐二郎
東京慈恵会医科大学附属病院	衛藤 謙

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

2025年11月19日（第2版）

[北海道大学病院における研究責任者名・所属]

北海道大学病院 消化器外科Ⅰ・准教授 本間重紀

[連絡先・相談窓口]

北海道大学大学院 医学研究院 消化器外科学Ⅰ

講師 市川伸樹

住所：札幌市北区北15条西7丁目

電話：011-706-5927、FAX：011-717-7515